9/6 令和4年度 第2回堺市立図書館協議会
会議録

令和4年度 第2回堺市立図書館協議会	
令和4年9月6日(火) 14時～15時 堺市立中央図書館 1階 集会室	
委員	中川幾郎会長、森美由紀副会長、北庄司愛浩委員、小松清生委員、 是住久美子委員(リモート参加)、飛石隆男委員、 松原茂樹委員(リモート参加)、山尾真弓委員、 吉田富美委員(リモート参加)、吉原極委員
事務局	浦部中央図書館長、赤嶺中央図書館参事(企画・調整担当)、 有澤中央図書館総務課長、湯川中央図書館総務課長補佐、眞鍋中図書館長、 杉本東図書館長、眞鍋西図書館長、白川南図書館長、三藤北図書館長、田 中美原図書館長、輔信企画情報係長、白川主幹兼図書館サービス係長、 稲野企画情報係員、田代企画情報係員
傍聴	3人
案件	1.令和3年度堺市立図書館サービス評価(案)について 2.令和4年度堺市立図書館サービス評価(案)について
その他	①堺市立図書館システム機器の入れ替えについて(報告) ②「堺っ子読書フォーラム」について(報告) ③「郷土資料展」および「郷土資料展記念講演会」について(報告)

署名委員の決定

小松委員 飛石委員

案件1について

発言者	内容
事務局	案件1について説明
会長	ご意見があれば挙手をお願いします。
委員	サービス評価 P.15「堺の歴史文化の保存・活用のための課題を共有・解決の方向を探してほしい」の部分について、図書館が守り伝えてきた貴重な資料群があることはすばらしい。しかしながら、現在、旧家に眠っていた資料が代替わり等で表に出てきている。図書館では受け入れが難しいということで、大学や博物館と相談をしているところである。貴重な地域資

	<p>料を図書館で受け入れできないという現状は、何とかならないものかと思っており、真剣に考えるべき時期がきていると思う。</p> <p>また、今年は堺の教育 150 年であるので公的機関で記念事業が行なえないかと働きかけをしている。図書館では大きな事業ができないとしても、資料の収集や市民の取組の応援等に関わることはできるのではないか。</p> <p>次にサービス評価 P.63「美原をしらべよう」の冊子がすばらしいという意見があるが、自分もこのような資料が公開されていることを評価する。一方、区役所作成の類似の地域資料には、図書館で所蔵していても PR がなされていない。もう少し他機関と連携して地域資料として大事なものは市民に紹介していくシステムを構築してほしい。</p>
会長	<p>図書館と博物館、郷土資料館との連携はいかにあるべきか、資料収集の役割分担について、事務局側から何かあるか。</p>
事務局	<p>堺の図書館は以前から地域資料収集に力をいれており、市民宅で発見された古い資料の提供は基本的には受け入れる体制である。しかし、博物館資料といわれるような本・冊子・書き物という形をしていない資料があり、一体として研究・保存したほうがよいという場合は、中身の割合によっては、博物館や文化課へ声掛けをするなど連携をとって対応している。</p> <p>紙の資料については基本的には受け入れを行っているが、それを整理・保存するためには中身がわかっていないといけないという点で、未整理の資料が多く、なかなか進んでいない。いただいた資料を市民に還元するまでに時間を要していることは心苦しく思っている。</p>
会長	<p>他にご意見はないか。</p>
委員	<p>サービス評価 P.13「学校図書館の充実」に対する評価に関して、学校図書館の実態について、ここに書いていることが全てではないので修正したい。</p>
会長	<p>案件 1 については、委員の意見を踏まえて修正の上、承認ということでよろしいか。</p> <p>(全員異議なし。承認)</p>

案件2について	
発言者	内容
事務局	案件2について説明
会長	ご意見や質問があれば挙手をお願いします。
委員	<p>令和4年度の各図書館の取組み目標の定量的指標において、政令指定都市の比較があったと思うが、令和3年度からは削除することとしたのか。</p> <p>また、各図書館の取組み目標の比較年度はコロナ禍の年度だけでよいのか。コロナ前の平成30年度との比較があってもよいのではないか。</p>
事務局	<p>政令指定都市の数値は、政令指定都市立図書館長会議で配布される資料から引用していた。例年7月に開催されていた会議がコロナ禍で書面開催となり資料がまだ届いていない為、記載できなかった。数値を入手次第、委員の方々に示す予定である。</p> <p>比較年度については、コロナ前の数値も掲載することとしたい。</p>
会長	<p>政令指定都市の数値は、間に合うのなら令和4年度堺市立図書館サービス評価には別刷りではなく、記載した方がよい。</p> <p>他にもご意見やご質問はないか。それぞれの委員から所見を伺いたい。</p>
委員	<p>タブレットが1人1台配布されているが、調べものをする際、できれば学校図書館に持っていき、本と確認・比較しながら進めたい。しかし、学校図書館の資料は文学(9類)が多いので、調べ学習をするには市立図書館との図書の貸出等の連携が必要。</p> <p>また、学校図書館の電子化、学校図書館と市立図書館の共有システムを学校予算でなく、市の予算で計上してほしい。</p>
委員	<p>他の委員のご意見を伺っていても、広報や発信が課題ではないかと感じている。この先工夫をして発信力を高めてほしい。</p> <p>また、地域資料は様々なものがあるが、公共図書館がどんな資料を所蔵しているのかはあまり知られていない。子どもたちが調べ学習をする際などに、書庫に資料があるが、見つけれないという状況がある。</p> <p>田原市では、子どもたちが地域について調べるにあたり連絡会をつくり、学区ごとにリストを作成している。紙媒体だけではなく、動画やケーブルテレビの録画資料などの蓄積があり、それらが活用できるよう取組をしている。堺市でも、情報を見つかりやすくする取組について検討を進め</p>

	てほしい。
委員	サービス評価にもっと具体的に広報活動について明示してはどうか。電子申請システムについては利用年代等、詳細な利用データがあるとよい。 また、情報リテラシーという言葉は注釈がほしい。
会長	委員の意見に対して事務局の見解を伺いたい。 また、情報リテラシーという言葉については注釈を入れてください。
事務局	学校図書館と市立図書館との連携についてお話があったが、現状をご説明させていただく。 図書館見学を小学校3年生時に行っていたが、コロナ禍になり児童の来館が難しくなったため、各区の図書館紹介動画を作成し、閲覧できるようにした。 団体貸出は各区の図書館でストックをもち、教科の進み具合によって貸し出せるよう対応している。年間約2万冊の貸出を行っているが、小学校中心であり中学・高校に対しては周知が必要であると認識している。貸出には調べ学習用と読書用の2種類があり、各学校で使い分けられている。 次に地域資料に関しては、絵図などのデジタルアーカイブと電子書籍の2つの方向で電子化を進めている。いずれも少しずつではあるが増やしているというのが実状である。さきほどお話にあった区役所作成の地域資料についても電子書籍化し、市民に提供したいと考えている。 現状、ポスターやtwitterで広報しているが、さらに戦略を練って進めていく必要があると感じている。
委員	他の委員のご意見にもあるが、広報は力を入れていただきたい。しつこくしなければ届かないものだと思う。 また、環境の整備について、できることとできないことがあるかと思うが、滞在できるような環境も併せて考えていただきたい。動線含め、書架の配置など環境というものを幅広くとらえて進めていただければと思う。
委員	学校への団体貸出について、2年ほど前に資料を紛失すると手続きが大変だということで市立図書館からは借りないという学校があった。紛失本の処理について改善してほしい。

	<p>大阪市や大阪府、近隣の大阪狭山市や和泉市は9時台に開館しているので堺市も開館時間を早めてほしい。10時では遅いという市民の声がある。</p>
委員	<p>不登校、いじめを受けている児童の受け入れ先として図書館があってほしいと思っている。このことが令和4年度の基本方針(2)「学ぶ力」の「⑤学校と連携して学びを支援します」に広義で含まれていると理解したが、今後も前向きに取り組んでほしい。</p> <p>また、広報手段としてInstagramを活用し、中高生に向けた広報活動を強化してほしい。</p>
事務局	<p>Instagramに関しては、開始に向けて他市状況の調査、効果的な発信方法、材料について検討している最中である。ご提案等あれば伺いたい。</p>
委員	<p>中高生はマンガをとっても好んでいるので、Instagramにはマンガっぽいものを使用した方が受けがよいと思う。</p> <p>また、ティーンズコーナーに不登校になり悩みを抱えている子どもと保護者向けの本を置いてほしい。「いじめにあったらどうするか」「親が向き合ういじめ問題」というような、いかにもなタイトルの本ではなく、自己啓発のような本が借りやすいようだ。</p>
委員	<p>先ほどから学校との連携という言葉が出ているが、学校と連携して最終的な目標が何なのかがみえない。</p> <p>「自分のまちを調べよう」という子どもの宿題はスマホで調べたので図書館を利用する必要はなかったし、宿題やクラブなどで時間のない中高生に図書館を利用してもらうのは大きな課題だと思う。</p>
委員	<p>図書館活用の実際と活用していない人を含めた全市的な要望をしっかりと調査してほしいという提案を実現してほしい。</p> <p>中央図書館の建替えも含めたロードマップや今後の展望についてもっと議論されるべき。図書館カウンター堺東のような施設についての方向性を語り合う場を設けてほしい。</p>
委員	<p>資料費について、令和2年度から3年度で図書購入費が450万円減少している件について、どのように考えているのか、令和4年度も資料費は削減されるのか。</p> <p>平成30年度から令和元年度にかけてオンラインデータベースのタイト</p>

	<p>ル数も3つ減っており、情報資源に関わる資料費が目に見えて削減されている。なんとかこの状況に歯止めをかけてほしい。</p> <p>今後の資料費の見通しについてお聞きしたい。</p> <p>また、学校図書館との連携について、学校司書がスキルの質問など気軽に相談できる窓口を公共図書館に設けるなど、公共図書館側でサポート体制を構築してほしい。</p>
会長	委員の意見に対して事務局の見解を伺いたい。
事務局	中央図書館建替えについて、形がみえてきた段階で協議会の場で運営方法を含めて諮問させていただく予定である。
事務局	<p>学校図書館司書のバックアップについて、一義的には学校図書館の取りまとめを行っている教育課程課が窓口となっている。実情では熱心な学校図書館司書は頻りに図書館を訪れ、分類の取り方や選書の仕方等について質問されている。また教育課程課で年1, 2回行っている研修の講師として司書が出向いている。</p> <p>教育課程課作成の「学校図書館運営の手引き」があり、教育委員会と一体となって支えているが、より良い支援ができるよう、図書館司書が学校訪問をした際に声を掛けるなど、学校図書館司書の声拾っていきたいと思う。</p>
事務局	学校との連携について、何を指してやっているのかというところだが、図書館は生涯学習支援を行う機関であり、その中に学校教育も家庭教育もあると考えている。学校等とも連携を取りながら、生涯学習を支援し、図書館の役割を発信していきたいと考えている。
委員	資料費減少の見通しについて聞きたい。
事務局	<p>令和5年度予算についてはこれからだが、今後無条件に増えるということは難しいと個人的には思っている。</p> <p>必要だということは主張していきながら、限られた資料費をいかに有効に活用するか。また、所蔵資料の情報発信を積極的に行うことで図書館の存在意義を高めていきたいと考えている。</p>
会長	<p>サービス評価は3つの基本方針に沿って点検・評価していくものだが、今回委員からはそのカテゴリーに当てはまらない意見や質問がでた。</p> <p>中央図書館と各区の図書館との役割分担、図書館と学校図書館の連携の</p>

	あり方、図書館と博物館との役割分担、PRのあり方、学校図書館司書と図書館との連携など、今後の活動の際に留意していただきたい。
会長	<p>施設が老朽化すると、この先建替か、廃止か、集合かの議論が出てくると思う。</p> <p>総務省の公共施設等総合管理計画の中に建替、廃止、整理統合の方針を出すことになっているが、他市では、議会は知らされていたが、協議会は知らないうちに書き込まれてしまうということがあった。当局も市民団体も飛ばし、行政主導で公共施設等総合管理計画が書かれていたというのはおかしい話だ。堺市にはそうならないように、記載しなければならない時期には協議会に報告し、意見を聞いてほしい。</p>

報告について	
発言者	内容
会長	まず事務局に説明を求める。
事務局	図書館情報システム機器の入れ替えについて説明
事務局	堺っ子読書フォーラムについて説明 郷土資料展および郷土資料展記念講演会について説明
会長	<p>皆さんからご提起いただいた図書館をめぐる視野、文化政策の視野を改めて感じた。堺市には「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」があり、文化及び芸術の振興という意味で、文化芸術だけではなく、図書館、公民館、博物館、劇場を統括する条例だと私は理解している。条例の趣旨を考えると、障害者、高齢者、子どもの文化的なアクセスの機会を十分保障することによって堺は力を入れている。これは図書館も同じことで、その条例の思想、理念、秩序のなかにあるということを変更して自覚をした。</p> <p>図書館は無料の貸本屋、子どもたちに対しては自習室という古い発想があって、図書館当局を苦しめている。また、博物館は単なる展示場、劇場は公設演芸場、公民館は安上がりのカルチャーセンターというような古い思想に基づく評価の対象にされていることが非常に残念だ。図書館は収益をあげることでできる施設ではないので、そこに投下される設備費や資料費が無駄金であるかのように受けとめる人が非常に多い。これは全く間違いである。</p>

	<p>最近制定された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」や「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」を読めばわかるが、これらの施設は教育施設であると同時に福祉施設であると定義されている。「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」では教育機関との連携について書かれており、その運用指針では福祉機関や医療機関との連携についても書かれている。劇場音楽堂でさえそうならば、図書館は、もっと学校・福祉・医療機関・地域と連携しなければならない。本館である中央館と区域館の役割分担をもっと精密にだしていき、地域課題をうけた図書館であることが求められるのではないかと。社会課題、地域課題に対応した図書館像を打ち出していった方が議会対応の面でも強い立場にたてるのではないかと思う。暇と金と体力と家族に恵まれた人がゆっくり本を読むというイメージから早く脱却すべきだ。図書館は社会を癒すため、再生産するための図書館であるといってもいいのではないかと。「自由都市堺文化芸術まちづくり条例」はそのような精神をもっている。その秩序の中に図書館はある。なぜならば、図書館行政は、地方自治体における法定外自治事務であり、図書館法というのはあくまで基準法であって、設置義務を定めている法律ではない。堺の図書館を支えている立法根拠は文化条例であると考えて、社会的再生産のための装置であるということをもっと皆さんと追及していけたらと思っている。</p>
<p>案件終了</p>	
<p>事務局</p>	<p>次回の開催は令和5年2月下旬から3月ごろに、令和4年度堺市立図書館サービス評価について予定している。</p>
<p>閉会</p>	